

宗谷

宗谷教職員組合

「宗谷情報」No.3 平成28年4月23日発行
発行責任者：高 一伸

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館

Te l 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484

ma i l info@soya-teachers.org we b : http://www.soya-teachers.org

1970年代から取り組み続けている運動に「主任手当」に関する三つの取り組みがあります。一貫した姿勢で臨んだこの取り組みが現代につないできた財産は、「民主的学校づくり」という考え方や、職場づくりの力合わせという営みです。私たちは、歴史を学び未来へつなげる役割があります。「主任」制度について職場の全教職員で学び合い確かめ合うことを大切にしましょう。

「主任」の意図を入れない 職場づくりを進めよう！

宗谷の教職員組合が 主任制度に反対するのは

宗谷の教職員組合運動の歴史の中で「主任手当」が問題になった一九七六年のことです。ちようにいま進行している「学校職員人事評価制度」と同じように、「教師の教育活動の内容の在り方」と「学校経営と校務分掌のあり方」が争点になる闘いと位置付けられています。私たちの先輩が「主任」制度について深く理解する学習を怠ることなく、理解を深め合意づくりを大切にしてきたからこそ目の前の子どもたちのことをみんなで考え話し合い学校づくりを進めてきた財産が今の時代に受け継がれています。

具体的には、主任手当を導入しようとする当時の文部省のねらいを「教師に対する統制

各分会での取り組みを！

宗谷教組では、毎年4月に「主任制度」には反対であること、主任手当を支給された方の意思（提出するならそれを拒まない）などの観点で校長先生に申し入れをしています。内容は次のようになっています。

1 学校運営の基本について

別紙「子どもたちの健やかな成長のために『民主的学校づくり』を進めよう」にある【教育活動と学校運営の基本】について、理解を求め合いましょう。

2 「主任」制度に関わる学校長の命課行為と、現実的な対応について

- (1) 私たち宗谷教職員組合は、教育の自主性・学校の自主性を損なう「主任」制度について、反対の立場です。
- (2) 学校長による命課行為（命課期日・命課氏名などの詳細）については、全教職員に命課内容が明らかにされるなど、不満や不信が残らないことが望ましいと考えます。
- (3) 支給された「主任手当」ならびに、報告「指導教員」については、学校長の恣意にわたる扱いや介入を行うべきではないと考えます。

民主的学校づくりに 分断という意図を入れさせない 「提出の取り組み」

これまで長い間、主任手当が提出され続けています。もとをたどれば、宗谷教組が誕生する以前から大事にされてきた確固たる意志を私たちの先輩方が確かめ合ったという事実までさかのぼります。宗谷では当たり前前に使われている「力合わせ」という

- ①学校を基礎に自主的・自覚的に手当を拠出する体制を確立すること
- ②教職員と父母との共同での保管体制を確立すること
- ③教職員と父母との共通理解にもとづく、活用体制を確立すること

の強化「教育内容への介入」であるとし、教育関係者とともに「教育活動、学校運営、校務分掌のあり方の民主的改善」を求める運動に発展しました。

また、組合加入の有無を問わず『主任手当』を個人所得にしない合意」を積み重ねてきました。主任手当の意図を押さえ、次の方針を一貫して追求してきました。

父母住民と教職員が 差し迫って必要な教育活動に 「活用」つてなんだ？

宗谷教組が誕生するずっと前。主任手当の運動の特に「活用」に関わって、当時の宗谷の教職員組合は、次のようにまとめています。

- ①宗谷の子どもたちの教育活動に直接関わる活用
- ②保護者・住民からの理解・支持が得られる活用
- ③「主任」制度の継続を前提にしない活用

ここにまとめてきたように、歴史的には主任制度が、さらには今年度から施行される学校職員人事評価制度によって、さらなる分断が危惧されます。目の前の子どもたちが不安を感じないような民主的学校づくりの具体化を進めましょう。

言葉は、民主的な学校づくりが管内のどの学校でも行われているからこそ：の言葉です。

「みんなで話し合って、よりよい学校づくりを進めよう！」——この言葉が「絵に描いた餅」になっていないことと、「主任」手当てに関する合意づくりは大きな関係があるはず。 「手当」による差別賃金と組織分断の推進というこの制度の本質を見抜きバラバラ攻撃を打破することが大切です。だからこそ改めて、拠出することの意義を確かめ合い、「主任」手当を「個人所得」にしない職場の意思統一を呼びかけます。

春、組合のよさがあちこちで

新年度がスタートして、子どもたちとの一年間のスタートの日々を過ごす毎日。早いところでは、家庭訪問期間に入っている学校もあるようです。そうした中で、各支部・各分会で、組合づくりが創意工夫のもとでたくさん行われています。

礼文支部



島に赴任した先生方が組合加入を真剣に考えてくれていて

猿払支部



今年から1人分会になった職場もあることから、分会会議を合

稚内支部



ひとつひとつの分会が、「民主的學校づくり」を自分たちのものとして理解し、分会として組合づくりを考えている職場があります。

同で行う工夫をはじめました。1回目の合同分会会議では、学校職員人事評価制度の学習をすることもあり、本部からも参加させていただきました。顔を合わせて話してみることで、評価制度の矛盾などの問題を明らかにすることができました。

連載「私と宗谷教組」②



私が組合に入るきっかけは、新卒1年目の時に同じ学校に勤務している先輩の先生に誘われたことでした。

当時たくさんの先生方に、まだ何もわからない自分を様々な面から支え、助けてもらいました。その先生方の多くが宗谷教組の先生方でした。今自分がここにいるのは、その時に組合の先生方に育てていただいたからだと思っています。

当時の私には、組合の先輩方が教員としての信念を持った素晴らしい先生方として映り、自分もこんな先生になれたらと思えるような憧れを抱きました。組合の先生方を持っている、仲間への優しさや厳しさ、子どもへの愛情、人として成長したいという要求、教育への情熱をもった、そんな先生になりたいと思ったものでした。あれから20年以上経ちましたが、今の自分が当時の先生方に近づけたかという、とても及ばない気がして情けない思いになることがあります。

それでも今日まで教師として、人として、少しでも成長したいという気持ちを続けてこられたのは、組合の存在があったからだと思います。組合は教師として、人としての視野を広げてくれました。そして何よりも仲間の存在が大きいと感じています。仲間に支えられ、時には自分も少しは力になって、お互いに成長できるような、そんな関係が組合の中で広がっていったらいいなと思います。

【礼文支部・支部長／高森 尚樹】

とある大規模小分会

始業式から数日。新年度スタートで忙しい中で分会会議を開きました。学校職員人事評価制度の学習だけでなく、「分会として教育研究をすることが大事」という分会方針をみんな豊かにすることの確かめ。そして、勇気を出して参加してくれた未組の先生も。「赴任してくれてありがとう。分会っていいもんだよ。よろしくね」と語り合ったそうです。

とある大規模中分会

新年度スタートから、すでに2回の分会会議を行っています。本部や稚内支部から送られてくる封筒の中身や、分会長会議での議論を受けて、「分会長だけがやるんじゃない



宗谷教組の運動を引っ張ってきた大先輩は「組合は『組織すること』が

大事だ」と教えてくれます。「場を作る」ということですか?と聞くと、「それもそうだけど、それだけじゃない」と。「『組織する』っていうのは『気遣いと心配り』のことなんだよ」と話してくれます。よく、組合は「つながり」づくりだと言います。「学校じゃない場所で集まれる場所が、組合なんですよ」というように。そうして、分会歓迎会や支部歓迎会が活発に行われています。

ないとうが組合で働くようになって、また別の先輩に教えてもらったのは、「組合の集まりをやる時は、自分の貴重な時間を割いて集ってくれることに感謝しなければいけない。そのうえで、みなさんが『来てよかった』と思えるかが大事だ」と。これも「気遣いと心配り」なんですよ。

組合に集まること、そして私たちの願いや要求をもとに、みんなで宗谷教組の組合づくりを「組織する」ことを意識したいですね。(naity)

て、みんなやっていこう」という話をしていこうです。少しずつ、荷を分かち合って組合づくりを進める。忙しいといわれるこの時代の中で大切なことです。

このほかにも、各支部や各分会で春の取り組みがたくさん行われていることと思います。ぜひ、「こんな取り組みやってみよう」ということを分会のおたよりや支部情報で交流してみよう。

「あつ、こんな取り組みやってみよう」ということが、お互いを激励することになり、組合運動や学校づくりのヒントになることもあります。少しづつの工夫、少しづつの知恵、そして集うことが組合づくりを豊かにすることにつながります。